

E-2 住宅の間取に関する研究(その3) —1970年住宅産業に現われた間取—

静岡英和女学院短大 前原 匡子

さきに本小論(その2)*では昭和45年(1970年)問題として注視され始めた住宅産業問題について、今後の住宅需要数、住宅投資額とその内容等から住宅産業に関して行政側、住宅産業側及び建築家、学者の各々の果す役割について具体的にのべた。又1970年に入り民間ディベロッパーにより新しく技術開発されたものに限り(本年4月現在)その建築技術、工法、材料、及び間取に現われた問題について検討した。

本小論(その3)では引続き新しく技術開発されたものについて以上の各視点から検討するが、在来の住宅(高層RC住宅、プレハブ住宅、ユニット式住宅)に比して著しい変化がみられる。数少ない具体例についてもその内容は各企業によって異り、今後大量生産方式によって生み出される多くの住宅がかなり質的にはさまざまな状態で世に出される可能性がある。

* 昭和45年5月家政学会関西支部発表会—住宅の間取に関する研究(その2)—1970年住宅産業に現われた間取—